

里塚斎場の再整備に関する説明会（第4回）【議事概要】

1 日時

令和7年11月29日（土）18時00分から19時54分まで

2 場所

清田区民センター（札幌市清田区清田1条2丁目5-35）

3 主催者

札幌市

4 出席者

- (1) 札幌市 保健福祉局ウェルネス推進部施設担当部長
保健福祉局ウェルネス推進部施設管理課長
保健福祉局ウェルネス推進部施設管理課斎場担当係長ほか
- (2) 住民等 約54名

5 説明会概要

- (1) 主催者挨拶（施設担当部長）

- (2) 説明（施設管理課長）

ア はじめに

- ・ 里塚斎場は、供用開始から40年以上が経過し、老朽化が進行しています。
- ・ 市内の火葬件数は、令和36年頃まで増加することが見込まれます。
- ・ 市民の火葬需要に安定的に応えるため、老朽化した里塚斎場の再整備について検討しています。
- ・ 清田区町内会連絡協議会会長会議には事前に説明し、説明会については了解を得ていますが、地下鉄東豊線の清田区への延伸が実現していない状況で、住宅地に近い場所への建替えは受け入れられないとの意見をいただいている。
- ・ 市の火葬場の現状、課題、再整備の検討状況を説明し、率直な意見を伺いたいと考えています。

イ 市内の火葬場について

- ・ 里塚斎場（南東）と山口斎場（北西）の2斎場体制で対応しており、それぞれ豊平川を挟んだ東側と西側のエリアを主な利用区域としています。
- ・ 里塚斎場の立地選定の経緯については、昭和50年代に平岸火葬場の老朽化等のため火葬場新設が計画され、市内複数の候補地から、切土や盛土を必要としない地形・地勢であることや主搬入路が住宅地を通らないこと等を総合的に評価し、里塚が最適地として選定されました。
- ・ 候補地選定後の地域への説明の段階では、地元町内会から反対の声が上がる中、町内会連絡会が設置した「火葬場に関する特別委員会」で検討を進めていただきました。その結果、清田区の分区や地下鉄東豊線延伸、羊ヶ丘通の完成など、14項目からなる要望書が提出され、昭和56年3月に火葬場建設を了承いただきました。
- ・ 要望書は、市が要望に善処することを条件に建設を容認するとの内容であり、現在までに実現された事柄もあれば、実現に至っていないものも残されています。
- ・ 要望事項のうち、清田区の分区については平成9年に、羊ヶ丘通については、平成2年に厚別東通まで開通し、平成29年に全面開通しました。一方で、公立大学などの誘致については実現していません。
- ・ また、東豊線については、平成6年に豊水すすきの駅から福住駅間が開業して以降、延伸は進んでいない状況にあり、平成23年に事業採算性を検証した際に黒字化が難しいとされ、現在に至っています。

- ・ こちらについては、地域の方を中心とした地下鉄東豊線建設促進期成会連合会が現在も活動しており、今年も10月27日に地域の思いを伝えるために、市長に要望書を提出しています。
- ・ 市長は、地域の熱い思いとバスの減便で不便になっている現状を重く受け止めていますが、将来にわたり赤字が膨らむ計画は責任を持った形で作れないことから、現在はいろいろな形で調査等を含めて動いている段階であるといった趣旨の回答をしており、清田地区町内会連合会各会長からは進展がないことに不満の声があります。
- ・ 山口斎場の立地については、豊平川西側を主な利用エリアとして、里塚斎場との位置関係も考慮のうえ、複数の候補地から手稻山口が候補地として選定されました。

ウ 火葬場の課題について

- ・ 里塚斎場は築40年で、火葬炉も令和16年頃には入れ替えが必要となります。山口斎場も令和18年頃には全面改修が必要となります。
- ・ 令和6年度の市内火葬件数は26,400件で、里塚・山口それぞれの火葬能力を超えてます。山口斎場が全面改修で休止した場合、里塚斎場だけで市内の火葬需要（最大令和36年に32,800件見込み）に対応することは困難です。

エ 再整備について

災害時のリスク分散や利用者の利便性を踏まえると、現在の里塚・山口の2斎場配置が最適であり、里塚斎場の再整備は里塚で行う必要があると考えています。そのうえで山口斎場が全面改修の間は里塚の現斎場と新斎場で対応し、山口斎場の全面改修終了後に現里塚斎場を廃止する考えです。

オ 新斎場の整備候補地について

現里塚斎場の敷地内、隣接地、近接地（里塚靈園内の円形芝生広場）を比較検討しました。

カ 整備候補地の比較検討について

- ・ 敷地内は、現斎場と同位置であり周辺住環境への影響が少ないですが、現斎場稼働中の工事となり、利用者の安全確保や駐車スペース確保が困難で、設計の自由度が低く、また、工事中の騒音で現斎場の静謐性が保てない恐れがあります。
- ・ 隣接地は、敷地内と同様、周辺住環境への影響が少ないですが、急傾斜地のため盛土造成が必要となり、地盤沈下や土砂災害リスクがあり、工事中の安全確保が困難で、樹木の伐採による自然環境への影響が懸念されます。
- ・ 近接地の円形芝生広場は、平坦な地形で盛土造成が不要で災害リスクが低く、また、現斎場と一定の距離があり、工事中の会葬者の安全や駐車スペースの確保ができる一方、現斎場から住宅地側に約450m近づくこととなるため、工事中の騒音・振動、完成後の景観への配慮が必要です。
- ・ 災害リスクの低減と会葬者の安全確保を前提として比較した結果、敷地内や隣接地での再整備は難しく、周辺住環境に配慮しつつ円形芝生広場を整備候補地とすることが最適であると判断しました。

キ 里塚斎場（現斎場と新斎場）と山口斎場の中長期整備スケジュール

- ・ 新斎場は、令和17年の供用開始を目指しています。
- ・ 山口斎場は、令和18年頃から大規模改修が必要となるため、改修期間中は現斎場と新斎場の2斎場で対応します。
- ・ 現斎場は、山口斎場の大規模改修完了後に廃止する考えです。

ク 周辺環境への配慮について

- ・ 景観等：植樹による目隠しなどを検討します。また、工事中の騒音などに配慮します。
- ・ 環境対策：ダイオキシン等の抑制効果の高い設備を導入します。燃料には灯油よりクリーンな液化天然ガス（LNG）などを検討し、ばい煙等の環境対策を強化します。
- ・ 周辺道路：火葬需要を平準化する取組を継続します。山口斎場の大規模改修を全面休場せずに行う方法や工期短縮を検討し、改修期間中の里塚への火葬集中を緩和する策を検討します。

ケ 合葬墓の新設・里塚靈園管理事務所の建替えについて

- ・ 里塚霊園管理事務所は、築50年以上が経過し、老朽化が著しい状況です。
- ・ 平岸霊園の合同納骨塚は、需要の高まりから令和9年度には受入れ限界を迎える見込みです。
- ・ 合同納骨塚については、延命措置を検討していますが、将来的には新たな合葬墓の設置が必要な状況です。
- ・ 設置場所として平岸、里塚、手稲平和の市営3霊園を比較し、里塚霊園内への合葬墓の新設と老朽化している管理事務所の建て替えを同時に進行する方向で検討しています。
- ・ なお、合同納骨塚については、多くのご遺骨が納められているため、お盆時期などには多くの方がお参りにいらっしゃいますが、線香やろうそくなどの火気の使用や宗教家による供養等はご遠慮いただいています。短時間での参拝となりますので、行列ができるような混雑というのは、あまり見られません。

□ 前回の説明会でのご意見について

- ・ 里塚斎場の再整備の必要性は理解できるが、円形芝生広場は住宅地に近すぎるので、隣接地を中心検討してほしい。
- ・ 合葬墓や管理事務所も住宅地に近すぎる。
- ・ なぜ里塚で再整備をするのか。
- ・ 整備当時と比べて周辺住環境が大きく変わっていることを考慮すべき。
- ・ 円形芝生広場の地盤は大丈夫なのか。
- ・ 円形芝生広場は子供の遊び場にならっているので反対。
- ・ ダイオキシンなどの健康被害がない形での計画としてほしい。
- ・ ばい煙などの環境影響がどの程度あるのか周知すべき。
- ・ 霊園周辺は、お盆時期を中心に大渋滞が発生し、生活道路の通り抜けも多いので対策をしてほしい。
- ・ 清田区は、里塚霊園・斎場を受け入れ、多大な貢献をしているのだから、せめて地下鉄を通してほしい。
- ・ 説明会で出された意見等に対しての答えをいただく機会を設けてほしい。

(3) 質疑応答

○ 発言者A

- ・ 説明会に複数回参加している近隣住民の者だが、高齢の方々や仕事で来られない近隣住民から複数の意見をいただいているので、代弁という形で数点意見を述べさせていただく。
- ・ 円形広場への建設予定地について、住宅地に近すぎる。
- ・ ばい煙による健康被害が予想され、恐怖を感じている住民がいる。
- ・ 近隣住民だけが犠牲になればよいという話ではない。長年居住しており、経済的にも引っ越し等ができる方もいる。
- ・ 40年前に比べ、住居数が格段に変化しており、霊園近辺に住宅が密集している。新たに建設するのであれば里塚以外への建設検討を要望する。
- ・ 建設時の騒音、工事車両の出入りによる交通事故を含めた交通規制等の問題がある。住民が犠牲になることは明確ではないか。
- ・ 再整備については風評被害、ダイオキシン、交通災害などの影響が大きい。住民が安心安全な生活ができるように再検討を要望する。
- ・ 住民を無視した計画については、不信感を持つ。
- ・ ばい煙、ダイオキシンの対策は本当に万全なのか不安である。
- ・ 新斎場について、住宅地に接近する設計では風評被害による不動産価値の低下に繋がるのではないか。
- ・ 合葬墓について、今回の計画は住宅に近すぎるのでないか。霊園内で、違う場所についても検討してほしい。
- ・ 札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ21」の中で、「誰もが健やかで心豊かに生活できる社会の実現」ということを基本理念としている。今回の里塚再整備計画では、近隣住民は心豊かに生活できるような環境ではなくなるのではないか。

- ・ 令和2年に「札幌市火葬場・墓地のあり方基本構想」を策定し、その後に札幌市火葬場・墓地のあり方推進協議会での検討がされ、里塚斎場の再整備については事前に町内会の会長方には説明されていると聞いているが、住民にとっては突然の話。
- ・ これまで出た意見や要望を検討していただき、住民が安心して住めるような方向性を出してほしい。

○ 発言者B

- ・ 資料の書き方に違和感を感じる。デメリットの中で、敷地内や隣接地の場合、会葬者の安全確保が難しいと太字で記載されている。一方で、近接地のデメリットの記載では、民地と距離が近くなるため工事中の騒音や振動があると記載があるが太字ではない。ここも太字で書くべきではないか。このような記載を意図的に入れているような気がしている。
- ・ 会葬者の安全を心配するのであれば、近隣住民の心配や不安をもっと大事にするべきではないかと、この資料を見て痛感した。
- ・ この資料の記載の仕方は意図的ではないのか。

○ 施設管理課長

今回で4回目の説明会となります。皆様からご意見をいただく中で、非常に不満に思うという声も届いております。ただ、資料につきましては、そういう意図で作成したわけでは決してありませんが、いただいたご意見をしっかりと受け止めなければいけないと思っています。

○ 発言者B

住民を大事にしてほしい。会葬者の安全を心配するのであれば、住民の不安についても、もっと札幌市はより強く感じてほしい。

○ 施設管理課長

そのように受け止めたいと思います。

○ 発言者C

- ・ 前回の説明会にも出席し、説明を聞いている。
- ・ 新しい火葬場を住宅地に近い円形芝生広場に建設することには、改めて反対であることを訴える。
- ・ 新斎場建設候補地である円形芝生広場の近くに住んでいるが、前回の説明会後に、この整備案について近所の方々に話を聞いてみた。
- ・ その中にはこの整備案が円形芝生広場に新しい火葬場を建設する話だとは知らずに、最近のテレビニュースで知ったという方もいた。戸惑いや反対の声が大半だった。
- ・ 火葬場が近くに見えることも、近くにあることも嫌だと言っている方もいた。建設されたら引っ越ししたいぐらいだと、かなり深刻に考える方もいた。
- ・ 死を日常に直結させる火葬場が近接されるということは、精神的に耐えられないという拒絶感や嫌悪感があると感じた。
- ・ ばい煙が無煙無臭で、有害物質も基準値以下で安全だとしても、生活圏に近接することは心理的影響が大きく、精神的にも負担になり、納得できるものではない。
- ・ 町内では子育て世代の転入が増え、子どもの数が増えてきている。しかし、火葬場が近隣に建設されることにより、住宅地の価格の低下や忌避感から転入先として選ばれなくなるという生活基盤に直結する問題になる。
- ・ 説明会の案内文について、再整備という表現が誤解を招き、参加者が限られたのではないかと思われる。
- ・ 説明会を知らず、テレビで初めて知った住民もいる。これだけ重要な問題であるにも関わらず、十分な周知がされていない。
- ・ この整備案は、技術的安全性や工事の経済性などの観点から、行政側の立場として判断したものであり、植樹やダイオキシン等の抑制効果の高い設備を導入するとあるが、住民生活や心理的影響を考慮した住民の立場に立った検討がなされたとは言えない。

- ・ 説明会に出席した住民が少ないから、特定の住民しか反対意見を訴えていないからといって、反対する住民が少ないとは思わないでほしい。
- ・ 戸惑いの深さや憤りを持った反対を訴える人が少なくないことを十分理解してほしい。
- ・ 地域住民の生活環境を脅かし、心理的負担を強いる円形芝生広場への新斎場を建設する計画は撤回し、他の場所へ設置する整備案を再検討してほしい。
- ・ 比較検討案にあった現斎場周辺への建設は、土工量の増加や基礎工事の追加、仮設工事の検討など工事費用の増額が生じますが、技術的に困難で不可能な工事とは思えない。
- ・ 円形芝生広場を工事中の資材置き場や仮設駐車場に使用する。現斎場跡地を合葬墓用地として活用するなども考えられる。
- ・ この整備案で進めるようであれば、住民の反発はより強く、安全安心を確保するという行政への信頼を損なうことになりかねない。
- ・ 近隣住民の心理的・社会的影响を重視した整備案を再検討することを強く要望する。

○ 発言者D

- ・ 前回の説明会には参加していない。回覧板で再整備の情報を知った。
- ・ 回覧板の情報から改築工事だと思っていた。現斎場の改築工事であれば、別に説明会は不要ではないかと思って聞いていたが、今の話を聞いて移設じゃないかと認識した。
- ・ 市としては、住民を騙すような形で回覧板を回して、こういう説明会を開催するのかと、非常に憤りを感じる。
- ・ 今回の説明で斎場というものには使用限度があるということがわかった。使用限度があるために次の建設が必要だと。それであれば、今ある里塚斎場ともう一箇所新たに里塚に斎場を作り、その二箇所を40年サイクルで場所を替えていくという考え方で、長期的に50年とか100年という単位で、この土地に斎場を設けたら良いのではないか。長期で場所を決めて、その場所でサイクルを替えていくという考え方。そのような形でなければ、建て替えのたびに揉め事が生じるのではないか。今だけではなく、今も未来もずっと生活する人たちに迷惑をかけないように、行政もスムーズに進めていくことが大切ではないか。SDGsの観点からも、そういう流れを作っていくことが重要ではないか。
- ・ 次に、一番反対なことは円形芝生広場に建設すること。里塚・美しが丘で暮らしている人たちにしてみれば、この場所は小さな子どもたちが自転車の練習をしたり、スポーツをしている人たちがトレーニングをしたり、ただの広場ではなく、地域住民の生活に根ざした場所。この場所自体が生活の一部となっている部分なので、どうしても守りたいという意思もある。
- ・ また、現斎場は全く見えないところにあるが、新斎場が見えるところに来るということは、非常に精神的にも辛いものがある。
- ・ 私たちも、最初からお墓があることがわかつていて住んでいている。当時は斎場が見えない状態だったため、ここでも住めると思った。ただ、目の前に斎場ができて、毎日いろんな人たちがたくさん来るのが見える形になると、この場所で生活していくことが辛くなる。
- ・ この整備案に関しては、私たちの地区では賛成する人はいない。近接地への移設については、絶対に反対。

○ 発言者E

- ・ 斎場の近くに住んでいる者ではない。
- ・ 資料のスケジュールを見る限り、里塚ありきと感じる。場所については、もっと早く検討の段階から近隣住民に説明すべきではなかったのか。
- ・ 近隣の住民の気持ちを考えると、円形芝生広場はありえない。私も決して賛成できない。
- ・ 私はこのアンケートにどちらかといえば反対と書いた。他にもやり方があるのではないか。
- ・ 今の斎場を作るときに、市から地下鉄を伸ばすと言われ、里塚靈園駅前まで記載のある図面を見た方が大勢いる。そして、反故にされている。市のやり方が信用できない。

○ 発言者F

円形芝生広場の地盤について、教えてほしい。

○ 施設管理課長

- ・ 円形芝広場の地盤ですが、札幌市で他の構造物を作った際のボーリング調査結果があります。その調査によりますと、およそ深さ10mから20mぐらいにしっかりした支持地盤があるということで、非常に安定しているということです。
- ・ また、こちらのエリアについては、液状化の心配もないというようなことになっています。

○ 発言者G

水が溜まっていると聞いたことがある。

○ 施設管理課長

円形芝生広場のところについては、そのような事はないというような調査結果でした。

○ 発言者G

地下にプールのようなものがあると聞いたことがある。

○ 施設管理課長

おそらく、水道局の里塚配水池のことではないかと思います。円形芝生広場の北側にあり、水道水を貯めておく配水池という構造物になります。この配水池を設置した際に、このあたりの地盤調査を行い、このエリアはしっかりとした地盤であることが確認できています。

○ 発言者G

そのような重要な配水池の上に、斎場を建てても問題ないのか。

○ 施設管理課長

斎場については配水池の上に建てるのではなく、配水池を避けた場所に建てることができないかということで検討しています。

○ 発言者G

これから何十年後かに配水池にある水道管が劣化し、そこから少しづつ水が出てきて、この場所の地盤沈下などに繋がることはないのか。長い目で見て、そんな危険な場所に斎場を建てるということはどうなのか。今はいいとしても、将来や次の世代の人たちのことも考えていく必要があるのではないか。

○ 施設管理課長

円形芝生広場に建てると決めたわけではないですが、ここに建てるとしても配水池に影響がないような建て方を考えていきますし、水道局の事業となります。去年まで実施していた水道管の耐震化の工事を含め、水道管については長期にわたって水漏れ等が発生しないようにしっかりと整備されないと聞いています。

○ 発言者F

円形芝生広場は何のための場所なのか。

○ 施設管理課長

何のための場所だったのかは存じ上げないのですが、里塚靈園ができた当時、靈園には水道が来ておらず、おそらく地下水を汲み上げて靈園内の水汲み場などに水を供給していました。その給水設備の一部であるシンボルタワー（給水塔）が円形芝生広場にあったとは聞いています。

○ 発言者H

- ・ 初めて説明会に参加した。
- ・ 私は山口斎場には行ったことがないが、この資料から敷地面積は山口斎場が40,000m²、里塚斎場が23,970m²で山口斎場が里塚斎場の倍近くある。それで、里塚斎場は火葬炉が30基、山口斎場が29基です。面積の広さの割に里塚斎場は非常に負担が大きいように思う。以前、里塚斎場では火葬の対応ができなくなるということで火葬炉を増やしたような記憶もある。

- 今後、山口斎場については大規模改修となっているが、火葬炉を増やしていくのか、現状の火葬炉を維持していくのか教えてほしい。

○ 施設管理課長

- 敷地面積や火葬炉数は仰る通りです。里塚斎場の火葬炉数については当初から30炉で、今までに増やしたことはありません。
- 敷地や建物の面積についてですが、里塚斎場の方が少し狭めで、後にできた山口斎場の方が広くなっています。
- また、ご遺骨を拾う収骨室というのがあるのですが、里塚斎場については火葬炉30基に対して収骨室が8室しかなく運用が大変な状況となってきています。近年、火葬件数が増えていく中で、構造上の問題により斎場が込み合っているという問題も見えてきているところです。
- そういったところを踏まえて、山口斎場については、火葬炉数は29炉となります、収骨室を14室設けたり、作業スペースを確保したりなど、面積的には広くなっています。
- 今後の山口斎場についてですが、火葬炉数を増やしたりということは、今のところ考えていません。同じ炉数で炉の入れ替えをするというようなことで考えています。

○ 発言者H

何も変わらないということであれば、結局は里塚の負担になるのではないか。

○ 施設管理課長

- 山口斎場の整備後は、山口斎場と里塚斎場で想定火葬件数の最大値である32,800件を半分ずつ火葬できるような体制をとっていきます。
- ただ、山口斎場改修中は、どうしても里塚地区にご負担がかかるということになりますが、改修後は両斎場で半々という形になると思っています。

○ 発言者H

今回の検討案は現斎場を円形芝生広場に移設し、移設後は現斎場を取り壊すということになるのか。

○ 施設管理課長

- 今の時点で我々がご説明させていただいている検討案というのが、そういったことになります。
- ただ、山口斎場の改修期間中は、どうしても一か所の斎場だけでは火葬が賄えないため、現里塚斎場も使いながら、新里塚斎場と対応していくことになります。
- 山口斎場の改修が終りましたら、現里塚斎場については廃止、解体していくということを考えています。

○ 施設担当部長

- 今までいろいろな方々からご発言いただきまして、誠にありがとうございます。
- いろいろな方々からご発言をいただいた中で、我々の説明会の広報の仕方が良くなかったというか、誤解を招いているのではないかということに関しては、我々は決して円形芝生広場で整備するということを隠すというような意図は全くありませんでしたので、再整備という言葉がそういうふうに受け止められることについては、正直反省しているところで、申し訳ございませんでした。
- あくまでも繰り返しになりますが、我々といたしましては、昭和59年に里塚を供用させていただく際に、いろんな諸条件を考えて里塚にさせていただきました。それを踏まえて、次にどこに作るかということで、山口を選ばせていただいたというところです。
- 現在の里塚と山口、これがリスク分散ですか、利用される方の利便性ですか、そういうことを考慮した時に、ちょうど市の中心地を挟んで対局の位置関係にあるという状況になっています。
- また、里塚に関しては、羊が丘通が整備されていますが、札幌でも一番素晴らしい道路かと思っています。
- 我々としては、今の斎場の配置がベストだと思っていますので、その上で里塚の老朽化に対応とした場合、地域の皆様に受け入れていただいている里塚の中で再整備したいという思いがあります。
- その中でどこに作るかということで、この三案をお示ししています。我々としては地盤の関係で

すとか、そういうことを踏まえて近接地、いわゆる円形芝生広場がいいというふうにお話をしていますが、ここで決めているというわけではありません。今回説明させていただいた三案を示していますけれども、色々なご意見の中に、環境的な問題ですとか、特に心理的な問題があつて住宅地に近づいてくることについては反対だというご意見を多数いただいております。

- ・ 我々としては、今までいただいたご意見をしっかりと受け止めさせていただいて、どういうふうに整備をしていくのがいいのかというようなことを庁内で検討した上で、前回の説明会でもお話しましたが、札幌市としての一定の方針案を得た段階で、改めて皆様にご説明をすることになるかと思います。
- ・ 具体的にどのように皆様にご説明をすることになるかは決めていませんが、その場合には、配水池の事も含め、具体的なしつらえというようなことも、一定程度ご説明した上で、こういうふうな形で整備をしたい、こういう配慮をして行きたいというようなことをお話しできればと思います。
- ・ 繰り返しになりますけれども、円形芝生広場ありきで考えているということではありません。不信感を持たれていることについては、我々の説明の仕方が悪いのかなと反省しているところでございますが、そこだけ一つご理解いただきたいと思っているところです。

○ 発言者I

- ・ 斎場の近くに住んでいる。
- ・ 検討案には敷地内と隣接地、近接地である円形芝生広場の三案があるが、近接地である円形芝生広場のデメリットに民地と距離が近くなるためと記載があるにもかかわらず、円形芝生広場を候補地として最適だとしている。住民のことをほとんど考えていないのではないか。
- ・ 敷地内や隣接地のデメリットには、会葬者の安全確保が困難、斎場の運営に支障が出る、土砂災害のリスクがあるとなっているが、工夫すればなんとでもなるのではないか。
- ・ 市の立場ではお金がかかると思うが、それよりも近隣住民を重視して考えることが必要なのではないか。近隣住民としては、かなり無視され、軽視されていると感じる。こういったところからも不信感を感じている。
- ・ 円形芝生広場に新しい斎場を持ってくるのは、止めてほしい。円形芝生広場を持ってくると、住宅地から110mぐらいの距離になるのではないか。あまりに近すぎる。
- ・ ダイオキシンの問題については、新斎場が円形芝生広場に建った場合の住宅地との位置関係が、丘の上に新斎場、下に住宅地となる。ダイオキシンは基準より低いとなっているが、毎日、丘の上から、住宅地に風でダイオキシンが吹き込まれてくるのではないか。非常に環境的に悪い。
- ・ また、円形芝生広場の下には水道局の配水池があり、配水池は避けて建てるのとことだが、すぐ近くに配水池があることになる。その配水池の水槽はコンクリートの水槽だと思うが、将来的に上水道の汚染なども考慮する必要がある。
- ・ 新しい斎場を円形芝生広場に建て、山口斎場の改修工事が始まると、里塚で新しい斎場と古い斎場の二つの斎場が稼働する形になる。非常に交通量が増えるのではないか。
- ・ 札幌の火葬を里塚のみで行うということは、今と環境が非常に大きく変わってくるのではないか。山口斎場の改修時も山口分の火葬は、山口斎場で対応するという検討をしてほしい。
- ・ 現在、里塚では交通量が非常に逼迫している。商業施設が多く、羊ヶ丘通は混雑している。里塚で山口斎場と里塚斎場の二つ分の火葬を行った場合、非常に交通障害が多くなる。
- ・ 次に、風評被害。特に子供たちへの影響が心配。150mという近さはかなり厳しい距離ではないか。当町内会は子供会ができ、子供たちも増えてきている。良いまちづくりということで、一生懸命に取り組んでいる。ぜひ水を差さないでもらいたい。
- ・ 先ほど交通量の話をしたが、羊ヶ丘通、里塚1号線が混雑している時に、我々の町内をショートカットして通り抜ける車両がいる。靈柩車も町内を通り抜ける環境となっている。このことも考慮してほしい。
- ・ 合葬墓について、住宅地から30メートルくらいの距離ではないのか。あまりにも住民を無視した計画ではないのか。合葬墓については、靈園内の空き地を利用したり、円形芝生広場の端を考えたらどうか。
- ・ 管理事務所についても、現在の位置で建て替えができるのではないか。
- ・ 検討している合葬墓と管理事務所の場所は、緑地帯として住宅地と分離を図り、公園化を考えてもらいたい。最近、民間の靈園では公園化が進み、親しみやすい靈園の建設が多くなっている。里塚靈園についても、考慮してほしい。

- ・ そのような観点から、市民が親しみやすくなるような靈園づくりを心がけてもらいたい。
- ・ 整備案については、住民意見を聞いて検討していくとのことだが、最終決定される前に、もう一度我々の意見を組み入れた案の住民説明会を開催してほしい。

○ 発言者J

色々と説明を受けたが、これは里塚ありきというわけではないということか。検討の段階ということで間違いないか。里塚ありきだと、我々が質問しても無駄になる。

○ 施設担当部長

- ・ 先ほど私が申し上げたことを改めて申し上げますと、色々な条件を踏まえて、まず里塚に現在の斎場を建てさせていただきました。その里塚に斎場があることを前提に、諸条件を考慮して山口に斎場を建てさせていただいたところです。
- ・ 我々としては、この里塚と山口の配置が利用者の利便性の問題やリスク分散の観点から現時点で最適だと考えており、里塚で再整備をしたいという思いがあります。
- ・ その中で、三箇所の候補地を示していただいたというところで、諸条件を踏まえると、近接地が我々としては最適だと思っていますが、多くの方から斎場が住宅地に近づくことに対する環境面の不安ですか心理的な抵抗感、風評被害というお言葉もありました。今の段階で近接地で再整備するということを決定しているわけではなく、頂いた様々なご意見を踏まえながら、改めて府内で検討させていただきたいということを申し上げたところでございます。

○ 発言者J

- ・ まだ検討されるということで、理解した。
- ・ 元々、里塚に斎場が来る前は平岸に斎場があった。私は平岸のマンションに住んでいたが、ベランダは開けることができなかった。煙で洗濯物を干せなかった。
- ・ 里塚に斎場が移るまでに5～6年かかった。地元の人からいろんな反対があった。その反対の結果、最終的にはいろんな条件が出てきた。その条件を受けて札幌市は斎場を建てた。
- ・ その条件が全然実行されない中で、またあれもしましょうということは、里塚の人たちは納得できない。
- ・ そのことを話さずに再整備だけの話をするのはどうなのかと、約束しても約束を守らないんだから、話を聞いたってしようがない。
- ・ 地下鉄の話を質問しても、地下鉄の話ができる人は誰も来ていない。地下鉄の話は誰が答えてくれるのか。
- ・ 現斎場を建てるときの条件。40年前に斎場を建てるときに地下鉄の話しをしていて、今回は地下鉄の話は一切やらない。
- ・ 当時、いろんな条件でいろんな苦労をしながら、住民を説得して建てた。
- ・ その条件が全部抜けている。今回も最終的にこういう条件なら建ててもいいと言った時に、その条件を受け入れるのか。また、同じことを繰り返すのか。そこを聞きたい。
- ・ 当時の条件を全部整理してから再整備の話をしないと説明をしたって無駄。
- ・ 行政側だけの判断で話をされたらどうにもならない。
- ・ 当時の条件の中で、全然進んでいないものがたくさんある。そこを整理してから、再整備の話をするなら我々も理解できる。当時の条件のことに触れずに、再整備の説明しかしないということは違うのではないか。

○ 発言者K

- ・ 今のお話ですが、里塚斎場以外の交通の問題や地下鉄の問題についての要望があるのだから、その要望に答えられる部署の方と一緒に来て説明してほしいということ。
- ・ 今回の住民説明会は5回あるが、その説明会を受けて、改めて検討、調整事項を報告するときに、全ての質問に答えられるようにしてほしい。そういう方が説明会の場所に来て、説明する機会を作ってほしい。
- ・ 斎場の近くにお住まいになっている方に対して、本当に申し訳なかったという札幌市の態度が出てこなかったことへの不満がある。地下鉄についてもそう。お住まいになられている方々にとって、本当に交通のことが重要。

- ・ ばい煙やダイオキシンについても一軒一軒の様子を聞くことは難しいかもしれないが、そういうことも必要だったのではないか。そういう不満が一気に説明会で出てきている。
- ・ 先ほども言ったが、説明会では全ての質問に答えられるように、対応できる方が説明会に来て、説明してほしい。

○ 発言者L

- ・ 30年前ぐらいから円形芝生広場の近くに友人が住んでいて、円形芝生広場ができる頃に行ったことがある。おそらく、ランニングをしたり、犬を連れて行くとか、円形芝生広場は近隣住民の安息の場所だったのではないか。
- ・ 先ほど、地下鉄を持ってくるという意図で里塚斎場を建てたとの話があったが、清田区ができる20年以上経っているが、何もない清田区という名刺があるぐらいで、地下鉄もない、ホテルもない、何もありません。
- ・ 本来、こういう場合はもっと低姿勢に里塚の方の意見を先に聞くべき。そういうことを聞きながら進めていく。公に出てから説明会をするものではない。
- ・ この円形芝生広場は何の意図で作ったのかを当初作った方に説明してほしい。
- ・ もう一点は、真栄高校の人たちが里塚霊園を通っているが、新斎場が円形芝生広場に建つたら、高校生の通り道がなくなるということ。
- ・ また、両斎場が東西にあることが最適だと札幌市が考えるのならば、もっと配慮した説明の仕方、デメリットを解消するために民地に近いところ以外の場所に目を向けるような説明が不足している。それで地元の皆さんは怒っている。
- ・ もう少し、ここに斎場を建てたら住民からどういう意見があって、どういうふうになるのかを想定する必要がある。我々でさえ、真栄の高校生が霊園内の道を通ることができなくなるんじやないかと思っている。もっと近隣の住民の不満を和らげる必要があるのではないか。
- ・ どうすれば住民が納得するのかということを考えて説明をしてもらいたい。

○ 発言者M

- ・ 過去に清田区に関すること、それから札幌市に関することで、こういった説明会には何度も参加している。
- ・ 今までに皆さんから出た意見にも納得している。私も火葬場を円形芝生広場に建てるということには反対。
- ・ ただ、残念なことに説明会は開かれたが、何の意見も考慮されていないということが数年間続いている。一度も反対意見を考慮されたことがないというのが私の感想。
- ・ 市長は「丁寧に説明をさせていただき、一定の理解を得たと考えています」と言い、これで通してしまう。そうではなくて、もっともっと住民の声を聞く、一軒一軒でも回って地域住民の理解を得る努力を本当にしてほしい。
- ・ 最後に、この整備案が決定する前に、もう一度説明会を企画してほしい。

○ 発言者N

- ・ 説明会には初めて参加した。
- ・ 最適な候補地が円形芝生広場ということで、これから火葬件数が増えるという部分についてはわかった。
- ・ ダイオキシンについて確認したい。現在の火葬によるダイオキシン濃度を把握しているのか。
- ・ また、現斎場を隣接地、敷地内で建て替えるということであれば、ダイオキシン濃度は気にしないが、民地に近くなる円形芝生広場で建てる場合には、濃度をどれだけ下げる必要があるのかということや、仮に円形芝生広場に建てた場合に、濃度測定で基準値に収まらない場合は斎場を休場することができるのかということを懸念している。全面休場した場合は、亡くなられた方に影響が出るのでそういうことにならないことを望んでいるが、そういう状況になったことも考える必要があるのでないか。
- ・ このまま計画が進んだ場合、ダイオキシンに対する対抗手段が考えられていないので、基本的には反対です。

- ・ ただ、円形芝生広場に建てられてしまった場合は、ダイオキシン濃度を民間事業者に測らせ、濃度が基準値を超えた時の処置をしっかりと考へるということでない限り、我々は納得できない。円形芝生広場に建てた場合はしっかりと対応をしてほしい。

○ 施設管理課長

- ・ ダイオキシン濃度について、現在の里塚斎場でもダイオキシンの濃度は測定しています。令和6年度の測定値では基準値が1ナノグラムに対して、0.081ナノグラムという結果です。令和5年は0.027ナノグラムで、基準を満たしています。これは火葬炉の排気口から出た直後の数値です。そのため、排気ダクトを通り、屋外に排出するまでにさらに薄まっていくと思われます。
- ・ 斎場の場所については決定していませんが、新しい火葬場では最新の火葬炉設備になり、現在のダイオキシン濃度より高くなることはないのかなと思っています。
- ・ ダイオキシン発生の原因になり得るものとして、いろいろな副葬品があります。従前より副葬品については減らすようにご案内していましたが、今年度もさらに周知を強化していこうということで取り組んでいます。

○ 発言者I

- ・ ダイオキシン濃度については、新しい設備によって抑えられると思いますが、丘の上から吹いてくる風の影響についてはわからないのではないか。データもない。ダイオキシン濃度を基準値以下に管理していくことしかできないのではないか。
- ・ 我々は円形芝生広場の近くに住んでいる。我々の不安感を理解していただきたい。

○ 施設管理課長

心配に思っていらっしゃることについては、十分に受け止めさせていただきたいと思います。

○ 発言者G

円形芝生広場は広域避難場所になっている。その場所が無くなつた場合、避難場所はどこになるのか。有事の時にどこに逃げたらいいのか。学校や公園はあるが、札幌市はどのように考えているのか。

○ 施設管理課長

里塚靈園については、大規模火災時の広域避難場所として、靈園全体が指定されています。

○ 発言者G

お墓の中に逃げろということか。

○ 施設管理課長

靈園についてですが、大規模な火災があった際に燃え広がるものがないということで、靈園が指定されているということです。

○ 発言者O

説明会には初めて参加し、資料も初めて見たが、毎回同じ資料を読み上げて説明会を実施しているのか。次に、5回目の説明会もあると思うが、全く同じ内容で説明会を行うのか。

○ 施設管理課長

5回実施する説明会については、いろいろな皆さんに広く参加していただけるように、場所や時間などを考慮して複数の説明会を設定しています。内容については同じ内容で説明をしています。

○ 発言者O

工事のスケジュールについて、来年から調査、計画、設計、工事となっているが、住民への説明についてはどれぐらいまで実施すると考えているのか。

○ 施設管理課長

- ・ 今回、説明会を5回行います。今後は説明会で皆様からいただいたご意見を踏まえて検討を行いまして、次の工程に進めていくことになります。
- ・ 今後、検討した内容をご説明する機会を設ける予定で考えていますが、これから実際に検討し、検討内容を詰めていき、次に具体的にどのように住民説明会を行うかということについては、決まっていない状況です。

○ 発言者O

いろいろな質問や要望が出ているが、それに対して回答をもらえるということでよいか。

○ 施設管理課長

ご意見を踏まえた上で、検討を進めています。

○ 発言者P

あなた方の住んでいる住居で、リビングから火葬場の煙を見ながら生活できるか。イエスかノーで答えてほしい。

○ 施設担当部長

- ・ 個人的にイエス、ノーで答えることはあまり良くないと思いますので、お答えを控えさせていただきます。
- ・ おそらく、実際には煙が出ているという状況ではないと思っていますが、火葬場が近くにあって、そこから排気が出ていることに対して、皆様はいろんな心配をお持ちだということをお話しいただいたのかなと思います。
- ・ これまでの説明会に参加された方がお話しされたものも同様です。やはり、心理的な面、環境的な面での不安も含めて、火葬場が近くになることについての不安というのは非常に大きいというご意見として受け止めさせていただきたいと思います。

○ 発言者C

- ・ ダイオキシンの話が出ているが、私なりに調べてみたことについて、お話します。
- ・ 最近の火葬炉は性能が改善され、無煙無臭だと聞いている。煙も出ない。しかし、ダイオキシン類や窒素酸化物、塩化水素、水銀などが基準値以下ではあるものの、完全にはゼロにすることはできず、先ほどのデータにもあったが、わずかながら排出されていると聞いている。
- ・ 10年後以降に山口斎場が全面休止する際に、2036年から2037年にかけて札幌市の火葬を里塚斎場が受け持つというふうな形になると聞いたが、札幌市が公表している火葬件数はその時に年間約3万件になる。友引日が休場になると聞いているので、残りの日数で割ると、1日平均でおよそ100件の火葬があることになる。
- ・ さらに、友引日を休場した場合、その次の日に火葬が集中するということで、札幌市での1日の火葬が177件になる。札幌市では、両斎場併せて59の火葬炉があるということなので、それを1日3回稼働させた場合、1日に177件の火葬が行われることになる。
- ・ これが1日ではなくて、何日も続く、あるいは何週間も続くということになるのではないか。そうした場合、ダイオキシン、ばい煙が排出されることについて、非常に不安がある。
- ・ どのぐらいの火葬件数があるのか、わからなかつたので調べてみたが、この認識でよいか。

○ 施設管理課長

- ・ 火葬件数については、ご認識のとおりです。昨年度で札幌市内で26,400件程度の火葬がありました。約3万件とした場合、単純に平均しますと、1日100件くらいの火葬となると思います。
- ・ 火葬件数が1日で最大177件ということについては、両斎場で59ある火葬炉を3回転ということで、そういう数字を出していますが、これは友引明けの日になります。このまま何も対応しない、対策を取らないでいた場合に、友引明けの日に1日で火葬できる限界が超えていくということが想定されており、火葬が特定の日に集中しないように、また特定の時間に集中しないようにということで、札幌市では火葬場を予約制に移行し、現状は友引明けの日に火葬が集中していることから、友引日の

開場についても検討を進めているところです。火葬については極力特定の日に集中しないようにということで、対策は考えていきたい思っています。

- ・ また、山口斎場の改修工事の2年間、令和18年、19年に山口斎場を2年間休場するというスケジュールで書いていますが、これは平成19年、20年に里塚斎場の大規模改修を行っています。この際、炉の入れ替えがあるため、里塚斎場を休止し、全て山口斎場で火葬を行っていた期間が2年間ありました。その例を参考に、一旦、山口斎場を2年間の休場としていますが、これについては山口斎場を運営しながら、斎場を半分ずつ改修工事できないかだと、あるいは2年間と書いているところを、もっと短縮できないかということは、ご説明の中でも申し上げましたが、しっかり検討して行きたいなというふうに考えています。

○ 発言者I

改修工事を25年毎に行っていたら、また25年後に同じ説明会を開かないといけない。その25年のサイクルについて、たとえば、1箇所斎場を増やす、あるいは余裕を持った設備を設ける、山口は山口で対応、里塚は里塚で対応できるような合理的で他の斎場に影響がでないような考え方で、今後は進めていただきたい。

○ 施設管理課長

- ・ 山口斎場、里塚斎場については、火葬炉の入れ替えの時に運営しながら改修工事ができるような建物の作りにはなっていません。今後、改修工事や新設工事を行う際は、部分的に止めながら改修工事ができるような構造にするなど、検討をしていきたいと思います。
- ・ 極端にどちらかの斎場に偏るようなことがないように、本当に25年、30年ごとに火葬炉の入れ替えが必要になってきますので、そういった将来的なことも踏まえて考えていきたいと思います。

○ 発言者Q

- ・ 今日の説明会の状況では、里塚霊園内、とりわけ円形芝生広場に新しい斎場を作るのは無理なのではないか。
- ・ このような状況で札幌市が強行した場合、大変なことになる。そのように感じた。
- ・ 昭和50年代に今の斎場を作った時に、先ほど札幌市の担当の方からもお話がありましたが、当時の清田地区町内会連合会が14の要望を出して、板垣市長が善処しますということで同意した。
- ・ 私は当時の清田区町内会連合会の資料を見たが、当時の清田地区町内会連合会というのは、豊平区清田地区町内会連合会のこと、今の清田区は五つの町連になっているが、当時は一つだった。その町連の中に特別委員会を設けて検討していた。
- ・ 当然、住民の中には反対意見もあった。町内会で反対署名を行っているところもあった。しかし、町連の特別委員会、10数名の方が委員となっていたが、14の要望を市長が善処するということで、同意した。
- ・ ただ、地下鉄を含めて実現に至っていない。この地下鉄の話が一番語り継がれている。地下鉄を作ると言ったのにと、そういうふうに地域は受け止めている。
- ・ 当時、なぜこのような14の要望を出したかというと、当時の町内会連合会の人たちは豊平区清田地区が札幌の中であまりにも街の開発が遅れていると感じていた。霊園と斎場だけだと、こういうことに危機感を覚えた。
- ・ そのため、地下鉄を作れとか、道路を作れとか、まず交通インフラをちゃんとやろう、それからまちづくりが始まるとか、札幌市に要望書を持って行った。
- ・ ところが40年経ってどうか。清田区には霊園と斎場だけ。他の区では、例えば豊平区には札幌ドームという立派な施設がある。西区にはちえりあがある。東区にはつどーむ、南区には芸術の森、中央区には立派な円山動物園が昔からある。清田区は何もない。そして10区の中で唯一、地下鉄もJRもないまま。
- ・ 当時の人たちは、まちづくり全体を考えてほしい、霊園、斎場だけではなく、清田区全体のまちづくりを考えた中でやってほしいということで、この要望を出した。
- ・ この話については、あまりにも配慮がなかったのではないか。今回については、何でもかんでも里塚でやればいいという姿勢が垣間見える。そうではなく、もし仮に、霊園で計画するのであれば、円形芝生広場を外すとか、それに加えて、清田のまちはこういうふうに進めて行くからというようなこ

とを総合的に話していくべきだと、当時は総合的に判断しますと言っていた。今回も総合的に判断するべきではないか。

○ 施設管理課斎場担当係長

ご意見、ありがとうございます。本日はご参加いただきまして誠にありがとうございました。ご意見やご質問につきましては、持ち帰りまして庁内で共有させていただき、今後の検討の貴重な参考とさせていただきたく考えております。本日は長時間にわたり、大変ありがとうございました。

以上